

(第1号様式)

## プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup> 認証申請書

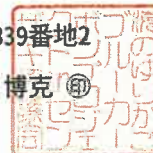
2025年01月13日

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ協議会

住所：山口県長門市東深川1339番地2

氏名：会長 吉村 博克



Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ

<p>プロジェクト区分 (複数選択可)</p>	<p>人工基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制</p>
<p>プロジェクト情報</p>	<p>【プロジェクト番号】 202401 JBCA 00008 【プロジェクト内容】 山口県長門市の仙崎湾周辺において、県が1983年から藻類の着生基盤として石材や構造物（増殖礁）を設置して魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成などを整備してきた。 仙崎湾では、大型定置網漁をはじめ採貝漁やナマコ漁などが営まれており、湾内の藻場は水生生物の生息の場、産卵の場、幼稚魚の育成の場として重要であることから、漁業関係者による藻場保全活動が行われてきたところである。 近年、海水温上昇などの海域環境の変化により、静穏域な湾内ではウニ類などの植食動物の増加による藻場の衰退が急激に進行しており、地域の課題として藻場の回復・維持を掲げたところである。 こうした中、藻場保全活動を効率的かつ継続的に実施するため、2022年9月に 「海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ」協議会を立ち上げ、関係者が共同かつ組織的に行う藻場保全活動に着手したものである。 【実施者及び申請者】 「海のゆりかごブルーカーボンプロジェクトinセンザキ」協議会は、下記の長門市・漁業関係者・県で構成されている。 ・長門市経済産業部 ・山口県漁業協同組合長門統括支店、野波瀬支店、小島支店、仙崎支店、通支店 ・山口県農林水産部漁港漁場整備課、水産振興課 申請者は、協議会の会長である長門市経済産業部である。 藻場保全活動は、漁業関係者が対象海域を4漁協支店で分担し、ウニ類の除去、母藻の設置・移植、海底清掃を実施する。 協議会の会長及び事務局である長門市は協議会の運営を行うとともに、活動の認知度を高め、地域の重要な産業である水産業及び観光業の活性化に向け広報活動を行う。 県は、市が行う環境保全学習や漁業従事者確保に向けた広報活動などを連携して行う。  【別添1】プロジェクト概要</p>
<p>クレジット取得理由</p>	<p>藻場の被度向上による気候変動緩和対策を進めるとともに、地域の重要な産業である水産業及び観光業を活性化させるためには、効果的かつ継続的な藻場保全活動や、活動箇所に近接する「仙崎卸売市場」や道の駅「センザキキッチン」を活用した広報活動が必要であるため、その費用としてクレジット収入を活用していきたい。</p>
<p>クレジット取得後の計画や見通し</p>	<p>核藻場としての機能発揮を目指し、活動範囲の藻場被度向上を進めるとともに、現在造成中の藻場を活動範囲に加えるなどの活動を進めていきます。藻場の回復・維持により、美しく豊かな仙崎湾を取り戻し、地球温暖化の抑制や、水産資源や観光資源の確保に貢献していきます。</p>
<p>申請対象期間に実施した活動の概要</p>	<p>○35.9haの活動面積を4漁協支店で分担し、環境に配慮して素潜りや船上からの藻場保全活動（ウニ類の除去等）を実施 ◇通支店保全グループ ・活動面積：8.0ha ・活動者：8名 ・活動内容：素潜りによるウニ類の除去、藻場の繁茂状況の把握 ・活動実績：8回（2023年10月～2024年9月） ◇仙崎支店保全グループ ・活動面積：24.5ha ・活動者：5名 ・活動内容：素潜りによるウニ類の除去、藻場の繁茂状況の把握 ・活動実績：12回（2023年10月～2024年9月） ◇野波瀬支店保全グループ ・活動面積：1.6ha ・活動者：4名</p>

<p>申請対象期間に実施した活動の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容：素潜りによるウニ類の除去、藻場の繁茂状況の把握</li> <li>・活動実績：4回（2023年10月～2024年9月）</li> <li>◇小島支店保全グループ <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動面積：1.8ha</li> <li>・活動者：4名</li> </ul> </li> <li>・活動内容：船上からのウニ類の除去、藻場の繁茂状況の把握</li> <li>・活動実績：13回（2023年10月～2024年9月）</li> <li>○仙崎湾に隣接する長門市立明倫小学校（5.6年生）43名を対象に、環境保全学習会を実施（2024年10月18日）</li> <li>○関係者が共同かつ組織的な活動を行うため、協議会総会を2回実施（2024年1月15日、2024年7月9日）</li> <li>○効率的な藻場調査や保全活動に向け、地元水産大学校と協議（2024年4月10日、2024年5月13日）</li> <li>○モニタリング調査については下記のとおり <ul style="list-style-type: none"> <li>・空撮調査（UAVドローン）：1式（2024年5月2日）</li> <li>・船上目視及び水中カメラ調査：1式（2024年5月3日、5月4日）</li> </ul> </li> </ul> <p>【別添2】保全活動の状況</p>
<p>プロジェクト実施開始日</p>	<p>2014年4月1日～現在</p>

項目1	①対象生態系面積の 算定方法	<p>【生態系】 海藻                  【藻場】 アラメ場                  【構成種】 クロメ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】                  1.298(ha)                  【面積の算定根拠】                  【被度を考慮した藻場面積】 通地先① 0.224ha、通地先②                  0.074ha、野波瀬地先 0.111ha、小島地先0.000ha、仙崎地先0.889ha                  【別添3】 調査報告書概要版 (P15～P16)                  【面積の資料】                  添付ファイルなし</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】                  4.2                  【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】                  文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照                  【別添3】 調査報告書概要版 (P14)                  【単位面積あたりの吸収量の資料】                  添付ファイルなし</p>

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 5.451(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：1.298(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 72%</p> <p>(吸収係数：4.2×評価：72%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 11.80(h)</p> <p>【出力】 41.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 軽油</p> <p>【CO2排出量】 0.182(t-CO2)</p>

<p>項目1</p>	<p>⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量</p>	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 1983年から県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質であるため。また、2013年8月下旬、仙崎湾を含む山口県日本海海域で30℃を超える高水温により流出した藻場を回復・維持させる取組の一つである。【別添4-1】ベースライン設定の根拠 【別添4-2】仙崎湾周辺での藻場の減少状況 【資料】 添付ファイルなし</p>
	<p>⑨クレジット認証対象の 吸収量</p>	<p>3.35(t-CO2)</p>

項目2	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 ガラモ場 【構成種】 ホンダワラ
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	【面積】 4.413(ha) 【面積の算定根拠】 【被度を考慮した藻場面積】 通地先①0.734ha、通地先②0.918ha、野 波瀬地先0.349ha、小島地先0.021ha、仙崎地先2.390ha 【別添3】 調査報告書概要版 (P15～P16) 【面積の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 2.7 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【別添3】 調査報告書概要版 (P14) 【単位面積あたりの吸収量の資料】 添付ファイルなし

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 11.915(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：4.413(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 72%</p> <p>(吸収係数：2.7×評価：72%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし



項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】                      1983年から県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質であるため。また、2013年8月下旬、仙崎湾を含む山口県日本海海域で30℃を超える高水温により流出した藻場を回復・維持させる取組の一つである。【別添4-1】ベースライン設定の根拠                      【別添4-2】仙崎湾周辺での藻場の減少状況                      【資料】                      添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	7.72(t-CO2)

項目3	①対象生態系面積の 算定方法	<p>【生態系】 海藻                  【藻場】 ワカメ場                  【構成種】 ワカメ</p>
	②クレジット認証対象期間	2023年10月01日～2024年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】                  2.95(ha)                  【面積の算定根拠】                  【被度を考慮した藻場面積】 通地先①0.195ha、通地先②0.500ha、野                  波瀬地先0.100ha、小島地先0.017ha、仙崎地先2.138ha                  【別添3】 調査報告書概要版 (P15～P16)                  【面積の資料】                  添付ファイルなし</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】                  0.45                  【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】                  博多湾におけるブルーカーボンオフセット制度の創設の今後の展望, 杉                  村ほか(2020): 土木学会論文集,77,31-48 Implementation of blue                  carbon offset crediting for seagrass meadows, macroalgal beds, and                  macroalgae farming in Japan, Kuwae ほか (2022): Marine                  Policy,138,104996 【別添3】 調査報告書概要版 (P14)                  【単位面積あたりの吸収量の資料】                  添付ファイルなし</p>

項目3	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.327(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(面積：2.95(ha)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 72%</p> <p>(吸収係数：0.45×評価：72%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目3	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 0(t-CO2)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 1983年から県で整備した魚類餌料藻場、磯根漁場、藻場造成により整備された着生基質であるため。また、2013年8月下旬、仙崎湾を含む山口県日本海海域で30℃を超える高水温により流出した藻場を回復・維持させる取組の一つである。【別添4-1】ベースライン設定の根拠 【別添4-2】仙崎湾周辺での藻場の減少状況 【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.86(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	11.9 t
------------------	--------